

〈研究ノート〉

鎌倉散策——六浦道と中世都市鎌倉を歩く——

安田 健人・森野 裕成・仲程信志郎・萩原多花帆
中山 來・小泉 愛珠・染川 真帆・伊藤 翔太

【はつめい】

二〇二四年七月二十八日、青山学院大学日本中世史研究会に所属する学生九名で鎌倉散策を行なった。鎌倉を散策の地として選んだ理由は、日本中世史において鎌倉が持つ役割にある。鎌倉は、中世という時代を表す象徴的な都市空間であると考えている。しかし、これまで私たちが捉えてきた鎌倉は現代の観光地としての側面が強かった。そのため、当時の人々と同じ目線にたち、中世都市としての鎌倉を捉え直すことを目的に、今回の散策を計画した。散策のコースは、鎌倉中心部と金沢地域を結ぶ当時の幹線道路、朝夷奈切通を通る六浦道を中心に寺社仏閣を巡るフィールドワークを行なった。

(中山)

【参加メンバー】

大学院生…安田健人
四年生…森野裕成・仲程信志郎・萩原多花帆・大中葉愛
三年生…中山來・小泉愛珠・染川真帆・伊藤翔太

【日程・場所】

二〇二四年七月二十八日(日)
神奈川県横浜市金沢区・鎌倉市

【散策コース】

金沢八景駅(集合) ↓ 上行寺東遺跡 ↓ 朝夷奈切通 ↓ 光触寺
↓ 報国寺 ↓ 杉本寺 ↓ 法華堂跡 ↓ 鶴岡八幡宮 ↓ 自由行動 ↓ 鎌倉駅(解散)

上行寺東遺跡（上行寺東やぐら群遺跡）…森野

最初の目的地は、中世の大規模「やぐら」遺跡とされる「上行寺東遺跡」である。京急線「金沢八景駅」から南西に十分程度歩いた地点、横浜市金沢区六浦に上行寺という寺がある。この上行寺の東側の石段を登り切った丘陵部分に「上行寺東遺跡」がある。現在、六浦の海岸は埋立地となっているが、中世段階では、岬や島に囲まれて山懐深く湾入した入江が自然の良港を形成していたため鎌倉の外港として重視され、物流の拠点となった。そのような、六浦を見下ろせる小高い丘陵の先端部に位置する本遺跡は、鎌倉時代から室町時代初期にかけての「やぐら群」と「建物跡群」を主体とした遺跡で、一九八四年（昭和五十九）のマンション建設工事に伴う事前調査で発見された。「やぐら」とは、十三世紀から十四世紀にかけて鎌倉地域を中心に流行した横穴式墳墓のことで、丘陵の頂上部分からは四十三基の「やぐら群」のほか「建物跡群」や墓壇などの遺構、陶磁器類や銅製品などの遺物が出土している。この「やぐら群」と「建物跡群」の関係が注目されたが、遺跡の現物は工事に伴い破壊されてしまい、歴史研究家を中心に保存運動が隆盛した。現在は遺跡を再現したレプリカのみが残る。このレプリカは、実物と同じ形態を使って遺構を移動させる「造形保存」という方法を用いて再生された、全国初の画期的な試みであった。実際に見

たレプリカは現物ながらであり、歴史的な景観を後世に残していく上でも非常に考えさせられる経験だった。次いで朝夷奈切通を目指して西に向かった。

朝夷奈切通（六浦道）…染川

朝夷奈切通は、朝夷奈バス停のすぐ先から左の谷あいに登り、鎌倉の十二所へ降りて行く山道で、国指定史跡となっている。「切り通し」とは、山の尾根付近を掘削して勾配を緩やかにし、拡幅して通行しやすくした道である。代表的な切り通しは、京都七口にならない、「鎌倉七口」と称されるようになる。江戸時代の延宝二年の徳川光圀著『鎌倉日記』では、「鎌倉七口トハ、名越切通 朝比奈切通 巨福呂坂 亀谷坂 仮粧坂 大仏切通 極楽寺切通是也」と記されている。この七つの切り通しの中で、朝比奈切通は、最も峠の標高が高く急な道である。この道は、鎌倉の都市化を推進するための軍事・経済等の要路であったと推測される。

朝夷奈切通を抜けるためには四十分くらいかかった。切り通しに入る前はとても暑かったが、切り通しの中は背の高い木がたくさん生い茂っていたので涼しさを感じた。朝夷奈切通はハイキングコースになっているようで、ハイキングに来ているグループもいた。道は思っていたより歩きやすかったが、段差が急なところもあった。中世の人々もこのような道

を歩いていったのだなと思いを馳せながら鎌倉へ向かった。

光触寺…中山

朝夷奈切通の終点である三郎の滝（朝夷奈の滝）を南に十五分ほど歩くと、見えてくるのが時宗系の寺院光触寺である。弘安元年（一二七八年）に創建されたこの寺は、作阿上人による開山以来およそ七〇〇年間、道場としての役割を担ってきた。門をくぐり境内へ入ると一遍上人の像が迎えてくれる。御本尊は阿弥陀如来三尊であり、三尊の中心に安置された阿弥陀仏は「頬焼阿弥陀」として知られ、頬に焼き印を押された法師の身代わりとなったという伝説が残されている。また、御本尊の厨子は関東管領の足利持氏が奉納したと言われている。他にも様々な仏像がある中で、最も注目すべきは「塩簀地蔵」である。かつて、港があった六浦の商人達が鎌倉に向かう途中に商売繁盛を祈願し塩をお供えしていた。ところが、帰り道には塩が無くなっていたことから地蔵が舐めてしまったのだろうという事でこの名前で呼ばれている。このことから、六浦から朝夷奈切通を通り鎌倉へと向かう六浦道が中世の鎌倉における物流の中心となっていたことがわかる。

塩簀地蔵の前には現在もたくさん塩がお供えされており、私自身も何かお供えしてみたいという気持ちになり、持って

いた塩分タブレットをお供えした。皆さんも光触寺に足を運ぶ際は食塩か塩分タブレットを持参することをお勧めします。

報国寺…仲程

報国寺は一三三四年に創建され、臨済宗円覚寺に属している。開祖は足利家時とも上杉重兼とも言われ、関東足利公方終焉の地としての意味合いを持つ。美しい竹林が織りなす景色は寺院全体に美しさと躍動感を与え、かの川端康成もこの情景を「山の音」と表現しており、静かながらも多くの観光客で賑わっていた。報国寺では、創建当初の石庭を再現した枯山水や山門から本堂に向かう道中での木々や苔が作り出す独特の雰囲気味わうことができた。また、拝観料とは別にお抹茶券を購入することもでき、竹林の織りなす世界観に浸ることができる。今回は予約の都合上抹茶を飲んで景色を楽しむことはできなかったが、散策全体の足休めにもなり、改めて訪れようと思わせてくれる空間だった。

杉本寺…小泉

杉本寺は、鎌倉にある鎌倉最古の寺院で、奈良時代に創建され、行基によって開かれたと伝えられている。また、地蔵尊など多くの仏像を祀っているのも特徴である。本尊の十一面観音像三体は、国または市指定の重要文化財で、うち一体

は行基の作とされている。このお寺は、鎌倉幕府の成立以前から存在しているため、古き良き時代の面影を感じることができる。特に、苔むした石段は杉本寺を象徴する風景の一つであると言える。石段に足を踏み入れた瞬間から別世界へと誘われる感覚があった。長い年月を経て苔が生えた石段を登っていくと、まるで時間が止まったように静寂が広がり、心が洗われるような気持ちになった。

今回杉本寺を訪れて感じたのは、古き良き時代の文化と自然が見事に調和している点である。寺院自体の歴史や、周囲を取り巻く自然が一体となり、他では味わえない静かなひとときを過ごすことができた。現代の喧騒を忘れ、心を落ち着けたいときに再訪したいと思わせる場所であった。

法華堂跡…萩原

杉本寺から法華堂跡まで十五分ほど歩く道中では、自然に囲まれながらも住宅地や公共施設が所々に見られた。法華堂は丘陵の上にあるため階段を上ると、少し広くなった野原に「史跡補家洞跡（源頼朝墓・北条義時墓）」の石碑が立っていた。現地の看板によると、『吾妻鏡』の義時が死去した頃についての記事に、頼朝の法華堂の東の山上を墳墓の地とし、そこに新法華堂（義時の法華堂）を建てたという記述があり、二〇〇五年の発掘調査によってそれが裏付けられたという。

また、付近には一二四七年の宝治合戦で頼朝法華堂に籠り自害した三浦氏一族が供養されているやぐらや、古墳時代後期の横穴墓を転用して江戸時代に造営された毛利季光・大江広元・島津忠久の墓所も見られた。偉大な先人たちの墓所が集まっているにしては人氣が無い場所であったものの、鎌倉の観光地化が日に日に進む中、当時の様子を保存し中世の空気を感ずることができると言えるだろう。

鶴岡八幡宮…伊藤

最後に、我々が向かったのは、鎌倉散策の最終目的地である鶴岡八幡宮である。すでに猛暑の中の散策で疲れ果てていたが、有名観光スポットというだけあり、近づくにつれてにぎわいも大きくなっていった。現地での流れは、敷地内の鎌倉国宝館を見学し、そののち、社内を見て回るといったことである。国宝館では、仏像などの文化財が常設されていたことに加え、企画展の「仏画入門―絵画で見るほとけさまの物語」という展示がなされており、国宝を含む、多くの貴重な文化財を見学するとともに、中世における鎌倉を「モノ」を通して感じることもできた。次に、舞殿、大石段、本宮と、鶴岡八幡宮を堪能した。静御前の舞、実朝の暗殺など、歴史上の出来事に思いを馳せながら、これらのスポットを見て回った。そして本宮のその雄大さから中世鎌倉の繁栄を感じ

とり、今回の旅は終了した。

【おわりに】

鎌倉は日本有数の人気観光スポットである。現代の観光地的な要素も鎌倉が積み上げてきた長い歴史の上に成り立っている。今回の鎌倉散策では、金沢八景駅から六浦道・朝夷奈切通を通り鎌倉中心部に入るコースを歩いた。金沢八景駅のある武蔵国六浦は鎌倉の東の境界に位置する。和田義盛の三男朝夷奈三郎義秀が開いたとされる朝夷奈切通は鎌倉と外港六浦を結ぶ重要な道路として機能した。この道の周囲に、頼朝に関連する寺社や幕府政務機関の跡が位置していた。そのようなことから、鎌倉幕府草創期のメインストリートは六浦道であったと考えられている。その後、六浦道は物資運搬の要路として発展を遂げた。実際に歩いてみると、朝夷奈切通から鶴岡八幡宮の南にかけて、東西を貫くように道が走っているのがわかる。鎌倉はしばしば、四角四面の条坊区画を持つ平安京と比較されるが、鎌倉の都市計画は朱雀大路を基軸に基盤の目状に展開する京都の都市計画とは異なるものであった。現在の鎌倉は、中世的都市鎌倉の上に成り立っていることがよくわかる。

我々が意識していないだけで見落としているものはないの外多い。今回の散策を通じて、学生には既存の知識を疑い、

自分の目で確かめ考える経験をして欲しかった。事前に調べ学習をしてから臨んだ散策で見える景色は新鮮なものであったであろう。

今後も学生の自由な視点から活動をしていきたいと考えている。その活動が、日本中世史研究会に限らず、他の研究会・史学会の活動として拡大していくことを望む。このような活動を通じて、学生に学ぶことの楽しさを知ってほしいと強く願っている。
(森野)

【感想】

安田

切通しを通って鎌倉を歩くことは中々無かったので、今回はとても充実した一日になりました。私が学部生の頃はコ罗纳禍でこうした活動機会が無かったので、ゼミの巡見とかがあればこんな感じだったのかな……などとしみじみ思いながら歩いていました。今後の中世史研究会がこうした研究活動の一助となれば幸いです。森野さんはじめ参加者の皆様、ご協力いただいた谷口雄太先生、史学科研究室の皆様、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

森野

今回の鎌倉散策では、六浦道を歩きながら中世都市鎌倉の

歴史を肌で体感することができました。事前に学生自らが目的的地について調べ学習を行い、現地への理解を深めてから散策を行ったことで、鎌倉の道がどのような歴史を経て、現在の都市へと繋がってきたのかを自らの目で確かめる貴重な機会となりました。また、学生間の親睦も深めることができました。この散策の記録を『史友』に投稿することにより、本学史学科の研究活動の活発化に貢献するとともに、他の学生たちの研究意欲を高めるきっかけとなることを期待しています。最後に、今回の鎌倉散策を実施するにあたり、ご支援を賜りました谷口雄太先生、史学科研究室の皆さまに心より感謝申し上げます。

萩原

鎌倉には何度も足を運んだことはありましたが、今まで機会のなかった切通を訪れることができ、最も中世を体験できる鎌倉散策となりました。ハイキングコースのような道中の所々で鎌倉の長い歴史が感じられたことが印象的で、実際に現地で歴史に触れることがどれだけの意味を持つかを実感しました。暑さの厳しい散策でしたが自分の足で様々な場所を尋ねられたことに価値を感じます。非常に充実した一日でした。

仲程

私は事前の勉強会には参加できず、鎌倉街道の全容について曖昧な認識のまま参加しましたが、座学では学べない視点が得られてすごく楽しかったです！また行きたいです！！

染川

今回の鎌倉散策では、自分たちの足で歩くことで多くのことを学びました。歩くことで土地勘を身につけることができ、鎌倉の道の歴史を確認できました。また、事前学習を皆で手分けしてしっかり行ったことで、当日の学びがより深いものとなったと考えます。素晴らしい企画に参加できて嬉しいです。ありがとうございました。

小泉

今回、朝比奈切通から鶴岡八幡宮まで歩いて散策したことで、今までより鎌倉を身近に感じる事ができました。実際に史跡に赴くことでその場でしか感じる事のできない荘厳な雰囲気など、様々な感情を味わうことができた充実した時間を過ごすことができました。このような貴重な機会をいただいたことに感謝しています。ありがとうございました。

中山

今回の企画は僕のがままから始まったもので、参加して下さった皆さん。取り仕切って下さった森野くん。色々根回しなどで尽力して下さった谷口先生に感謝の気持ちで一杯です。また、みんなでどこかに行けることがあれば嬉しいです。ありがとうございました。次回の参加者募集中です。

伊藤

ゼミの皆様とともに歴史散策を行う大変貴重な機会でした。鎌倉には以前から興味があり、たびたび訪れていましたが、同じ時代を専攻する史学科の皆さんと鎌倉を見てまわる素晴らしい体験ができました。企画立案をしていただいた皆様、本当にありがとうございました。

